



口腔の健康づくりを通して自律的な健康づくりのできる子の育成
《人のこころ》《じぶんのからだ》を大切にする子
岐阜県恵那市立大井第二小学校 児童数499名 18学級



学校の教育目標【かしこく・なかよく・たくましく】のもと、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指しています。主体性と自尊感情をもち《基礎学力・人のこころ・じぶんのからだ》を大切にしたいと考え日々の実践に努めています。

特に健康づくりの視点からは系統的な歯科保健活動計画をもとに、発達段階に応じた健康についての学習、日常的な保健指導の充実ならびに家庭・地域・関係諸機関との連携を図ることにより、児童が自分の歯・口・生活習慣の課題に気づき、進んで健康づくりのできる子になると考え、学校歯科医・教職員・家庭・地域が一丸となって進めています。研究内容については、3つの視点をもちました。

研究内容1：健康を「見つめ」「実感する」授業づくり

授業づくりのポイント

1. 自分の課題に気付く（導入）
2. 探る・やってみる（展開）
3. 自分の変容に気付く（評価）



《ばいきんのかたまりを見つけよう(全学年)》では、歯垢を落とすにはどうしたらよいか工夫できるようになりました。《自分発見生活マップ(3年生)》では、自分と仲間の生活マップを比較し、生活リズムの変容に着目できるようになりました。



学習指導案を担任、教頭、教務主任、学校歯科医の4者で検討します。

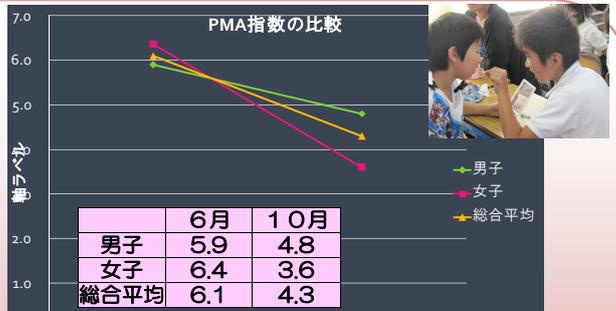
研究内容2：日常的な保健指導・保健管理の充実

学校歯科医による健康相談(5年生)にPMA指数(歯肉炎の広がりを示す指標)を導入しました。



PMA指数1.5点(6月)

PMA指数0点(10月)



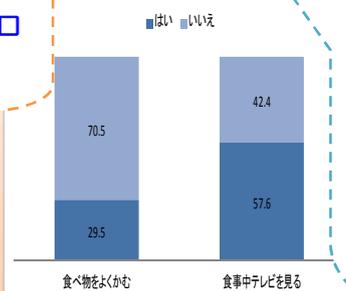
5年生は《目指せ0点PMA》を目標に、自分の歯みがきや食生活・生活リズムの課題解決を目指しています。右上のグラフは6月と10月のPMA指数平均値の比較です。また、歯みがきの腕前を2年生にも伝える《ペア歯みがき活動》を実施しています。

研究内容3：家庭・地域・関係諸機関との連携

健康タイム(毎週1回朝活動の時間)に全校でフッ化物洗口を実施しています。



推進校アンケート



推進校アンケートの結果から、《よくかんで食事をする》《食事中に家族で会話をする》の課題に視点を当て、家庭と連携を図り、冬休みを利用して家族かみかみチャレンジに取り組みました。内容は「1. 主食を何回かんだか」「2. 口輪筋を鍛える運動をしたか」についてです。よくかんで食べることの大切さを家族で考える良い機会になった、口ぶえの練習を毎日やっていた等、保護者からもたくさん感想をいただきました。